

地区のセンター的な役割を目指して

焼津市立大井川中学校 青嶋幸弘

本校は、昭和33年に大井川町立大井川中学校として開校し、今年度で63年目を迎えます。

その間の平成21年に旧大井川町と旧焼津市が合併したことによって、焼津市立大井川中学校と改称し、現在に至っています。また、来年度から校区内の3小学校と連携してコミュニティ・スクールを開設する準備を進めています。

今年度の在校生は、大井川町時代に生まれたものの、物心ついたときには焼津市となっていた世代になります。しかし、保護者や祖父母は大井川地区に誇りをもっており、学校を「その中心を担う存在」と考えています。そのため、大井川地区の多くの家庭は学校の教育活動に協力的であり、温かな雰囲気の中で子どもたちが育てられています。このような環境で育てられた子どもたちは、素直で男女の仲がよく、気持ちのよいあいさつができています。今年度の学校教育目標は、「ともに たくましく ～自分から 自分たちで～」です。主に発揮させたい資質・能力として、大井川地区3小学校で共通して「思考力」を掲げています。

通級指導教室については、焼津市内はセンター方式であり、小学校3校、中学校2校に設置されています。中学校では、令和元年度から本校に、今年度から焼津中学校に開設されました。本校の通級指導教室には、市内の他校3中学校と本校から合わせて22名の生徒が通っています。開設当初より「生徒の特性や実態に応じた指導＋カウンセラーや関係機関との調整役になる」「通級指導教室は、生徒、保護者にとって安心で安全な場所である」ことを教室経営目標に掲げ、「生徒自身の自己理解、自己受容、自己選択を促す」「自己効力感を高め、豊かな社会生活を送ることができる人を育てる」ことを目指しています。このような教室経営を通じて、大井川地区、焼津市の特別支援教育のセンター的な役割を担っていきたいと考えています。

焼津市立大井川中学校 通級指導教室 「はんの木」



はん
榛の木（大井川中敷地内）

〈大井川中学校通級指導教室 「はんの木」の名前の由来〉

開級式での校長先生の話より

「大井川の地域から南を『榛原』^{はいばら}と言いますが、この地区は昔、『榛の木』^{はん}が生い茂っていた場所です。榛原の『榛』^{はい}は『榛の木』^{はん}のことです。この力強い木にたとえて、たくましい生徒に育つようお願いをこめて、この教室を『はんの木』と名付けました。」



通級指導教室の出入り口です。体育館とつながっている校舎の1階に位置しています。駐車場がすぐ近くにあるため、来室者の移動の負担が少ないです。ただ正門側に面しているため、登下校の時間帯は生徒で混み合います。

通級指導教室の活動スペースです。元は美術室のため、その名残で棚や水道があります。広くて刺激の少ない空間で体を動かし、会話や学習を進めています。どの来室者にも好評です。



保護者の待合室です。元は美術室準備室です。職員作業で整備できました。生徒の活動スペースとは、写真右奥の扉につながっています。廊下からの出入りもできます。様々なジャンルの書籍や新聞・雑誌の記事、進路資料等を揃えておいています。



これらの3つの場所は、本校の生徒たちが縦割り（1～3年が混ざる）清掃をしてくれています。いつもきれいで気持ちがいいです。この清掃は、本校生徒たちに通級の存在を知ってもらう機会にもなっています。